

令和 7 年度施設園芸栽培環境改善支援事業
(事業実施計画書・実績報告書)

1 事業実施主体

(1) 氏名又は名称及び代表者氏名: 農林 太郎

※免税事業者又は簡易課税事業者の場合は右の“口”をチェック



(2) 栽培品目 イチゴ

(3) 施設園芸の経営面積(a) 20 a

(4) 住所又は所在地

〒 〇〇〇-〇〇〇

三重県 〇〇市〇〇町〇〇番地

(5) 連絡先

TEL :

FAX :

E-mail :

2 事業の必要性、目的及び期待する効果

冬季の設定温度を引き下げ、燃料使用料の削減に努めているが、厳冬となった場合、栽培品目の生育に影響を及ぼす必要がある。そこで、既存の内張資材を多層化し、保温効果を高めることで、収量を維持しつつ、燃料使用量を削減を目指す。

また、近年、夏季の高温により、花芽分化が遅れるため、出荷時期にも遅れが生じ、高単価時期の販売機会の損失につながっている。そこで、遮光・遮熱資材の設置により日中の温度上昇の抑えるとともに、ヒートポンプの導入により夜間の温度を下げることで、年内出荷量の増加を目指す。

(注) 燃料価格高騰の影響又は夏季の高温の影響を受けづらい栽培体系への転換にあたっての現状と課題を踏まえて記入すること

3 成果目標

燃料の高騰対策に取り組む場合は①
夏季の高温対策に取り組む場合は②
両方に取り組む場合は①、②と記載する

①、②

① 燃料の高騰対策の取組

設備・資材導入後の作期のうち任意のひと月分について、燃料使用量を前年同月対比で5%以上低減

単位	a: 現状値 (R6年12月)	b: 目標値	c: 実績 (R7年12月)	達成率 (a-c)/(a-b)
KL	2	1.8	1.75	125%

※青字箇所は実績報告時に記載する

② 夏季の高温対策の取組

設備・資材導入後の作期のうち任意のひと月分について、出荷量または売上を前年同月対比で5%以上増加

単位	a: 現状値 (R6年12月)	b: 目標値	c: 実績 (R7年12月)	達成率 (c-a)/(b-a)
KG	2000	2200	2300	150%

※青字箇所は実績報告時に記載する

4 取組内容

(1) 導入設備及び資材の概要

番号	導入設備及び資材の名称	導入量	実施時期	設置場所	設置面積	備考
①	内張資材（サニーコート）2層	10a分	11月	〇〇市〇〇町〇〇	10a	
	【既設備等】（ある場合記入） 内張資材（農ビ スカイ8防霧）					
②	遮光・遮熱ネット（商品名）	10a分	6月	〇〇市〇〇町〇〇	10a	
	【既設備等】（ある場合記入）					
③	ヒートポンプ（商品名）	1台	7月	〇〇市〇〇町〇〇	10a	
	【既設備等】（ある場合記入）					

(2) 事業費（単位：円）

番号	導入設備等の名称	事業費 (税込)	負担区分		備考
			県補助金 ※	() その他	
①	内張資材（サニーコート）2層	700,000	350,000	350,000	
②	遮光・遮熱ネット（商品名）	205,000	102,500	102,500	
③	ヒートポンプ（商品名）	2,509,000	1,254,500	1,254,500	
合計※		3,414,000	1,707,000	1,707,000	

- ※ ・導入設備・資材ごとの県補助金＝事業費×1/2
 ・県補助金の合計＝事業費の合計×1/2（千円未満切り捨て、補助上限300万円）
 なお、消費税の免税事業者及び簡易課税事業者以外は、事業費は税抜で算出する。

5 添付書類等

【計画書】

(1) 導入する設備及び資材の内容が分かる資料

- ①事業費の根拠となる資料（原則、複数社の見積書※）

※事業費10万円未満の場合は1社で可とする。

- ②設備・資材のカタログ等

- ③（設備・資材の機能向上の場合）説明資料及び根拠資料（メーカー資料等）

(2) 成果目標における現状値を確認できる資料（燃料購入の納品書・領収書、収穫物の出荷伝票等）

(3) その他、事業実施計画を補足するために必要な資料

【実績報告】

- (1) 証拠書類（納品書、領収書等）

- (2) 財産管理台帳（耐用年数が設定されている設備・資材の場合）

- (3) 設備・資材の導入前と導入後の写真

- (4) 成果目標の達成状況を確認できる資料（燃料購入の納品書や領収書、収穫物の出荷伝票等）

機能向上の説明資料（様式自由）

○燃料使用量の削減効果の向上

（記載例1 内張資材の機能向上）

別添のメーカー〇〇の熱貫流係数データより

内張資材A（既存の設備・資材）	：	熱貫流係数	6.3
内張資材B（導入する設備・資材）	：	熱貫流係数	4.2

（記載例2 内張資材の機能向上）

別添の施設園芸省エネルギー生産管理マニュアル 表-1より

内張資材A（既存の設備・資材）	：	熱貫流係数	4.4
内張資材B（導入する設備・資材）	：	熱貫流係数	3.5

（記載例3 ヒートポンプの機能向上）

5馬力のヒートポンプ+暖房機を併用して加温していたが、8馬力のヒートポンプに機能向上することで暖房機による燃料使用量を削減する。

既設のヒートポンプの加温能力の根拠資料： 別添のカタログを参照
冬季の設定温度を引き下げ、燃料使用料の削減 別添のカタログを参照

○高温対策効果の向上

（記載例4 遮光・遮熱資材の機能向上）

ハウス内の

遮光・遮熱ネットA（既存の設備・資材）	：	別添のカタログを参照
遮光・遮熱ネットB（導入する設備・資材）	：	別添のカタログを参照